

学校評価(共通項目)評価書

朝霞市立朝霞第四小学校

柱	No	評価項目	自己評価	自己評価の説明及び学校の考え	関係者評価	学校関係者評価者の改善策等
学校の組織運営	1	学校は、学校教育目標達成に向けて、全教職員で組織的に取り組んでいる。	A	職員は児童理解に努め、とくに課題のある児童に信頼関係構築を重視し対応している。また、生徒指導、研修において組織的に動いている。若手の参画意識も高まった。	A	「心の本棚」不登校支援室常設等、組織としての取組が可視化されている。職員の肯定的評価が高く、組織としての取組を意識している。
	2	学校は、安全・安心に配慮し、危機管理体制を整えている。	B	高額な防災、空調などの設備が老朽化し不具合が続く。修理までの対応に苦慮したが、最大限早期に解決できるように働きかけた。倫理確立委員会等で、日頃から事故防止への意識が高まっている。継続し、指導をしていく。通学路の安全点検に重点を置く必要がある。	B	児童の9割以上が安全に注意する意識を持っている。学校の課題とすることを十分に認識し工夫して取り組んでいる。施設・設備の管理についても留意してどのように対処すべきか具体的な方策を共有しようとしている。安全・安心が脅かされたいさというとき、地域にヘルプが出しやすい現状になっているかは疑問。防災、空調設備の修繕など、大きなところではしっかり対応している。トイレの汚さを指摘する声が多い。業者を入れるなどできないか。
基礎学力の定着	3	児童生徒は、教職員の指導により、基礎学力を身に付けている。	B	児童理解・信頼関係の構築が学習指導への効果につながる。本校で担任のスキル向上のため、学年間や教科間での指導技術の共有が必要である。	B	アンケートから児童も保護者も先生を信頼していることがわかる。学習の評価は子供全人的な評価ではない。評価の受け止め方も伝えてほしい。
	4	学校は、学力向上をめざし、児童生徒の実態に基づいて授業改善に努めている。	A	すらら導入によりタブレット端末の活用が進んだ。また、ロイノートの効果的活用を推進していく。研修の形態を変更し、複数の教科・小グループで取り組むこととした。職員主体で公開授業・研究授業が実施され、授業力の向上が図られた。学力向上に成果が表れたが、学年や教科により偏りがある。朝霞市が推進している「探究的」学習もよくみられる。	A	児童の学習への意欲を高める努力をしている。今の時代に合う学習指導を見極め、一層の成果を上げほしい。児童アンケートから、教師の前向きな姿勢が感じられる。学年内での教科分担等で負担のない効率的な授業の質の改善を期待する。校内で起きたことに学校が対応することは当然だが、校外しかも放課後のことまで対応しなくてはいけないのか疑問ではあるが、しっかり把握して保護者に共有して下さるのはありがたく頭が下がる。
規律ある態度の育成	5	児童生徒は、生活のルールに基づき、発達段階に応じた「規律ある態度」を身に付けている。	B	挨拶できているとの評価が多いが、二分している面もある。「健康的な生活」とも関連することから、保健指導、食育も含め規律ある態度を育成していく。	B	運動会、途中からの雨でスケジュールが変わったが、子供たちが気持ちを切り替え、素直に協力的に動いていたのが印象的だった。「あいさつ」子供の自己評価と保護者の目線ではギャップがある。学校では挨拶できて外ではできていない。校内で起きたことに学校が対応することは当然だが、校外しかも放課後のことまで対応しなくてはいけないのか疑問ではあるが、しっかり把握して保護者に共有して下さるのはありがたく頭が下がる。
	6	学校は、児童生徒の実態把握に基づき、規律ある態度の指導の工夫・改善に努めている。	B	規律を正すには、その子供の実態を十分に把握し、個に応じた対応が必要である。	B	規律ある態度がなぜ求められているのか、その本当の意見を理解できるように指導してほしい。
健康・体力向上	7	児童生徒は、体育の授業や運動部活動、外遊び等の運動に意欲的に取り組んでいる。	A	「ぴよんぴよんタイム」(縄跳び)、マラソンタイムが根付き、外遊びぶ姿が多くみられるようになった。今後も体を動かすことが好きな子供の育成に努める。体力テストでは昨年の取組の成果が出ている。	A	児童アンケート「先生は話を聞いてくれる」「先生はしっかり教えてくれる」の評価がとてもよい。昨年度と比較しても向上している。児童一人一人の良さを認め指導していることがわかる。
	8	学校は、児童生徒の体力を高めるため、意図的に向上策を講じている。	A	体育主任、体力向上主任を中心に対策を考え対応している。この動きを全体に広げていく。行事を削減していく中で、取組の質が問われる。PDCAサイクルによって評価・改善を繰り返す。	A	外遊びがよくできている。教師と一緒に遊んで遊ぶ様子が好ましい。大縄での練習を見た。先生方が発達段階に合わせた技術向上に工夫されている様子がみられた。行間、昼休みに校庭に出て元気に遊んでいる。冬場以外も何かイベントがあるとよい。
連携	9	学校は、保護者や地域と連携し、その教育力を学力や体力の向上に生かしている。	B	地域に開かれた学校づくりを目指しているが、教職員・保護者の負担とのバランスを図っている。スペシャルサポートルームでは地域の方が子供たちを見守る取組を始めた。月～金曜日、隙間なく不登校傾向の児童対応ができるようになった。	B	地域に開かれた学校づくりが十分と思えない。いざというとき、急に地域の協力を求めても普段からの関係性がないと地域側が協力的になれない。顔の見える関係性構築が必要。「心の本棚」の取組、まつぼっくり読み聞かせと地域や保護者の力をよく活用している。支援が必要な子どもへの手厚いケアは素晴らしい。一方そうではなく普通の児童そしてその家庭に関してはコミュニケーション不足があると思う。

179	10 保護者や地域は、学校と協力し合い、児童生徒の安全指導・健全育成を推進している。	A 相対的に学校に対して批判も協力も少ないように思われる。学校に寄せる意見に対しては可能な限り応え、学校と保護者が子供を真ん中に据えて指導できる体制を継続する。	B 9と同様。児童の登下校を気にしている地域の方もいる。潜在的な地域の力はまだまだ掘り起こせると思う。もっと保護者が参加できたり見に行ける授業(行事にすると大変なので)を増やしてはどうか。関わりが増えると学校に興味を持つ保護者も増えるかもしれない。
-----	---	---	---

注:「自己評価」及び「関係者評価」の欄はA~Dで記入

Aは4点、Bは3点、Cは2点、Dは1点で換算した平均値から、A:3.4以上、B:2.6以上、C:2.0以上、D:2.0未満